科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：法哲学 ILAS Seminar :Philosophy of Law			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　菊池　亨輔		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (12) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	共北3A			使用言語	日本語
キーワード	基礎法学 / 法哲学 / 法理学 / 法思想 / 社会思想						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

現代社会を支える基本的な仕組みである法は、事細かな条文や裁判例として現れる一方で、その内容や運用は、背景として存する原理や理論、思考様式、さらには歴史的経緯によって支えられる。さらに、社会状況や科学技術も、法を大きく左右する背景である。本授業は、文献講読を通じて、それら法を支える基礎理論や背景を探究するものである。

法および法学のあり方や前提について広く深く分析する視座を獲得し、我々の生きる社会を問い直すきっかけを見つけてほしい。

[到達目標]

①法や法学を支える基礎的な思想や原理に関する知見を得る。
②法、法学さらには社会制度のあり方について、多角的・根源的に考察する能力を養う。
③議論の構造や要点を的確に把握するとともに、一歩踏み込んで自ら考える姿勢を身につける。
④自分の抱いた疑問点・不明点を言語化し、他人に伝えられるようになる。

[授業計画と内容]

前半の数回では、テーマに関する基礎文献を講読する。それを踏まえて、後半の回では、関連する内容から各自でテーマを設定して、調査・検討のうえ報告してもらう。いずれも、教員による解説を適宜交えつつ進める。
本年度のテーマとしては、「AIと法」「法的思考とAI」などを考えている。もっとも、法哲学は何をやってもよい学問分野なので、受講者の希望と同意がある場合には、（法、政治、社会に関わる範囲内で）異なるテーマへと変更する。

第1回
　ガイダンス。今後の授業の進め方や報告の仕方などを説明し、テーマおよび文献の選定ならびに報告日の割当てを行う。あわせて資料作成に関する初歩的な説明も行う。

第2-14回
前半：特定の文献を対象に事前に指定した範囲を読んで授業に臨んでもらい、その内容についてディスカッションを行う。ここでは特に報告者を指定しない。
後半：指定された報告者による発表と全体でのディスカッション。報告者には、発表用資料の作成と提出を求める。受講者数によってはグループでの報告となるので、その際には報告者間で十分に打合せをして臨まれたい。

第15回
　フィードバック

ILASセミナー ：法哲学(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：法哲学(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告回におけるプレゼンテーションと質疑応答（50点）、それ以外の回における議論への参加と発言内容（50点）によって評価する。なお、出席回数が10回に満たない場合には不可とする。

[教科書]

授業中に指示する
必要に応じてプリントを配付する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

自身の報告回であるか否かを問わず、予め指定された文献を読み込んだうえで出席してください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]